



SALVATIONIST

とぎのこえ

2021年標語「主によって練られ、備えよう」(マラキ書3章3節)



陽春号

広報版

2021

March-April

No.2815

2021 年 救世軍標語

「主によって練られ、備えよう」

聖書箇所：マラキ書 3 章 3 節

彼は精錬する者、銀を清める者として座し
レビの子らを清め
金や銀のように彼らの汚れを除く。
彼らが主に献げ物を
正しくささげる者となるためである。

ときのこえ SALVATIONIST

陽春号 広報版
2021 March – April
NO.2815



今年のイースターは、4月4日です

若者は言った。「驚くことはない。あなたがたは十字架につけられたナザレのイエスを捜しているが、あの方は復活なさって、ここにはおられない。御覧なさい。お納めした場所である。さあ、行って、弟子たちとペトロに告げなさい。『あの方は、あなたがたより先にガリラヤへ行かれる。かねて言われたとおり、そこでお目にかかれる』と。」(マルコによる福音書 16 章 6、7 節)



@SAArmyJP



SAArmy_JP



救世軍
The Salvation Army

きりと

- ☐ 『ときのこえ』購読を申し込みます。
(1 年分 1140 円。税込、送料別)
- ☐ キリスト教についてもっと知りたいです。

ご氏名

ご住所

表紙の写真：任官を待つ『恵みを伝える者』の学年候補生

もくじ

■メッセージ	喜びの人生を生きるために 司令官 大佐 ケネス・メイナー	 3
■〔連載〕聖潔の流れに立つ 第 15 回	ブレングルの生涯と聖潔 中將 吉田 眞	 4
■東日本大震災から 10 年	「絆フレンズ」「恵プロジェクト」前責任者 アンディ&ローナ・ギルバート 仙台小隊 小隊長及び災害対策室東北分室 中尉 栗飯原 順	 5
■集会報告	クリスマス・セレブレーション・コンサート 社会鍋デモンストレーション	 6
	「SA 麻布レジデンス」竣工式 初野戦	 7
■各地のニュース!!	機恵子寮、 清瀬小隊、関東東北連隊	 8
	大森小隊、士官志願者部・霊的生活成長部	 9
■YP (青少年部)・ファミリーニュース	祝成人！ 青少年部主催オンラインコンサート	10
■社会鍋による支援	前橋小隊、岡山小隊、高崎小隊、上野小隊、福山小隊、横浜小隊	11
■克己週間募金		12
■〈連載・第 9 回〉	神の呼びかけ～神の民となるために～ (4) 恵の座への呼びかけ	13
■救世軍見解表明	社会道德に対する救世軍の立場 第 4 回「祖先崇拜」(2) 第 5 回「環境への配慮」(1)	14
■救世軍公報／召天記事		15
■こどもと青少年のための世界祈祷日		16
■各地の社会鍋アルバム		16

喜びの人生を生きるために

司令官 大佐 ケネス・メイナー

現在、私たちは、かつて思いもしなかった危機からの強い影響を受けていることは確かです。病气、深刻な経済的損失、世界的政情不安、暴力的な抗議行動、突然迎える死は、日常茶飯事となっています。

のまにすることは、神の民の取るべき選択ではありません。聖霊なる神は、私たちに別の選択を与えてくださいます。

私たちは幸せを感じます。病气や、命の喪失、失業など困難なことが起こったとき、幸福感は遠く離れ去っていきます。

状況に左右される幸せは、無作為なものです。聖霊の与える喜びはそうではありません！

世界の各地に、怒りの感情が、数えきれないほど満ちています。政府への怒り、指導者への怒り、新型コロナウイルス感染症への怒り、さらには、神に対する怒りが満ちているのです。

さらに、この世界に対してと同時に、互いに対して、苦々しい態度をとる人々も多く見られます。また、恐れの感情も無数に見られています。反対に、ドアに鍵をかけ、窓を閉め、あらゆる物事や人々との関わりを避けている人々もいます。

状況に左右される幸せは、無作為なものです。聖霊の与える喜びはそうではありません！

八十年代後半、ボビー・マクファアリンという歌手は、「ドント・ウォーリー・ビー・ハッピー」という曲をつくり、演奏しました。

神の御言葉は、聖霊が、クリスチャンの生活に喜びをもたらすという原則を常に記しています。パウロは書いています。

この曲はカリブ風の独特な雰囲気、マクファアリン自身のアカペラで録音されました。自らの歌の重なり、口笛、ボイス・パーカッションなど、マクファアリンの声による伴奏でできています。この曲は大ヒットしました。

「霊の結ぶ実は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制です。」（ガラテヤ5・22、23）

世界中の人々がこの歌を歌ったのは、理由がありました。この歌から、人々はしばしの幸福感を得られるからでした。

「霊の結ぶ実は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制です。」（ガラテヤ5・22、23）

あなたは、この御言葉において、「愛」の後に「喜び」が来ることに気づかれたでしょう。喜びは、復活のキリストとの交わりを通してもたらされる、すばらしい贈り物です。喜びという賜物は、私たちの魂の内に、聖霊によって与えられます。

「霊の結ぶ実は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制です。」（ガラテヤ5・22、23）

私たちは、この御言葉において、「愛」の後に「喜び」が来ることに気づかれたでしょう。喜びは、復活のキリストとの交わりを通してもたらされる、すばらしい贈り物です。喜びという賜物は、私たちの魂の内に、聖霊によって与えられます。

「霊の結ぶ実は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制です。」（ガラテヤ5・22、23）

私たちは、この御言葉において、「愛」の後に「喜び」が来ることに気づかれたでしょう。喜びは、復活のキリストとの交わりを通してもたらされる、すばらしい贈り物です。喜びという賜物は、私たちの魂の内に、聖霊によって与えられます。

「霊の結ぶ実は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制です。」（ガラテヤ5・22、23）

私たちは、この御言葉において、「愛」の後に「喜び」が来ることに気づかれたでしょう。喜びは、復活のキリストとの交わりを通してもたらされる、すばらしい贈り物です。喜びという賜物は、私たちの魂の内に、聖霊によって与えられます。

「霊の結ぶ実は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制です。」（ガラテヤ5・22、23）

私たちは、この御言葉において、「愛」の後に「喜び」が来ることに気づかれたでしょう。喜びは、復活のキリストとの交わりを通してもたらされる、すばらしい贈り物です。喜びという賜物は、私たちの魂の内に、聖霊によって与えられます。

「霊の結ぶ実は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制です。」（ガラテヤ5・22、23）

私たちは、この御言葉において、「愛」の後に「喜び」が来ることに気づかれたでしょう。喜びは、復活のキリストとの交わりを通してもたらされる、すばらしい贈り物です。喜びという賜物は、私たちの魂の内に、聖霊によって与えられます。

「霊の結ぶ実は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制です。」（ガラテヤ5・22、23）

私たちは、この御言葉において、「愛」の後に「喜び」が来ることに気づかれたでしょう。喜びは、復活のキリストとの交わりを通してもたらされる、すばらしい贈り物です。喜びという賜物は、私たちの魂の内に、聖霊によって与えられます。

「霊の結ぶ実は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制です。」（ガラテヤ5・22、23）

私たちは、この御言葉において、「愛」の後に「喜び」が来ることに気づかれたでしょう。喜びは、復活のキリストとの交わりを通してもたらされる、すばらしい贈り物です。喜びという賜物は、私たちの魂の内に、聖霊によって与えられます。

「霊の結ぶ実は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制です。」（ガラテヤ5・22、23）

私たちは、この御言葉において、「愛」の後に「喜び」が来ることに気づかれたでしょう。喜びは、復活のキリストとの交わりを通してもたらされる、すばらしい贈り物です。喜びという賜物は、私たちの魂の内に、聖霊によって与えられます。

「霊の結ぶ実は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制です。」（ガラテヤ5・22、23）

私たちは、この御言葉において、「愛」の後に「喜び」が来ることに気づかれたでしょう。喜びは、復活のキリストとの交わりを通してもたらされる、すばらしい贈り物です。喜びという賜物は、私たちの魂の内に、聖霊によって与えられます。

「霊の結ぶ実は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制です。」（ガラテヤ5・22、23）

私たちは、この御言葉において、「愛」の後に「喜び」が来ることに気づかれたでしょう。喜びは、復活のキリストとの交わりを通してもたらされる、すばらしい贈り物です。喜びという賜物は、私たちの魂の内に、聖霊によって与えられます。

「霊の結ぶ実は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制です。」（ガラテヤ5・22、23）

私たちは、この御言葉において、「愛」の後に「喜び」が来ることに気づかれたでしょう。喜びは、復活のキリストとの交わりを通してもたらされる、すばらしい贈り物です。喜びという賜物は、私たちの魂の内に、聖霊によって与えられます。

「霊の結ぶ実は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制です。」（ガラテヤ5・22、23）

私たちは、この御言葉において、「愛」の後に「喜び」が来ることに気づかれたでしょう。喜びは、復活のキリストとの交わりを通してもたらされる、すばらしい贈り物です。喜びという賜物は、私たちの魂の内に、聖霊によって与えられます。

「霊の結ぶ実は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制です。」（ガラテヤ5・22、23）

私たちは、この御言葉において、「愛」の後に「喜び」が来ることに気づかれたでしょう。喜びは、復活のキリストとの交わりを通してもたらされる、すばらしい贈り物です。喜びという賜物は、私たちの魂の内に、聖霊によって与えられます。

「霊の結ぶ実は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制です。」（ガラテヤ5・22、23）

この喜びは、私たちを、周囲に異彩を放つ、力強い者にしてくださいませ。私たちは、イエスが私たちの罪のために死なれたことを悲しんだり、怒ったりはしません。そうではなく、イエスを通して、私たちは命を受け取り、私たちの名前が、命の書に書かれているゆえに、私たちは、喜びを受け取り、経験することができのです。

「主を喜び祝うことこそ、あなたがたの力の源である。」（ネヘミヤ8・10）

「お前の主なる神はお前のただ中におられ、勇士であって勝利を与えられる。主はお前のゆえに喜び、愛によってお前を新たにし、お前のゆえに喜びの歌をもって楽しまれる。」（ゼファニヤ3・17）

パウロは、神の国には、聖霊によって与えられる義と平和と喜びがある、と言いました。聖霊からの喜びは、私たちが復活のキリストの僕出した信者にします。

「主を喜び祝うことこそ、あなたがたの力の源である。」（ネヘミヤ8・10）

「お前の主なる神はお前のただ中におられ、勇士であって勝利を与えられる。主はお前のゆえに喜び、愛によってお前を新たにし、お前のゆえに喜びの歌をもって楽しまれる。」（ゼファニヤ3・17）

私たちは聖霊の導きの中を歩くとき、聖霊が私たちを支配するとき、聖霊は私たちの人生に喜びを生み出してくださいます。喜びは、喜んで聖霊に支配されるすべての人々のためのものなのです。

「主を喜び祝うことこそ、あなたがたの力の源である。」（ネヘミヤ8・10）

「お前の主なる神はお前のただ中におられ、勇士であって勝利を与えられる。主はお前のゆえに喜び、愛によってお前を新たにし、お前のゆえに喜びの歌をもって楽しまれる。」（ゼファニヤ3・17）

怒りと恐れにとらわれたこの世界で、私たちは復活のキリストに従う者として、喜びの人生を送ることによって、キリストをこの世界に際立たせることができます。この喜びを保つためには、私たちは、日々主を喜

「主を喜び祝うことこそ、あなたがたの力の源である。」（ネヘミヤ8・10）

「お前の主なる神はお前のただ中におられ、勇士であって勝利を与えられる。主はお前のゆえに喜び、愛によってお前を新たにし、お前のゆえに喜びの歌をもって楽しまれる。」（ゼファニヤ3・17）

私たちは聖霊の導きの中を歩くとき、聖霊が私たちを支配するとき、聖霊は私たちの人生に喜びを生み出してくださいます。喜びは、喜んで聖霊に支配されるすべての人々のためのものなのです。

「主を喜び祝うことこそ、あなたがたの力の源である。」（ネヘミヤ8・10）

「お前の主なる神はお前のただ中におられ、勇士であって勝利を与えられる。主はお前のゆえに喜び、愛によってお前を新たにし、お前のゆえに喜びの歌をもって楽しまれる。」（ゼファニヤ3・17）

私たちは聖霊の導きの中を歩くとき、聖霊が私たちを支配するとき、聖霊は私たちの人生に喜びを生み出してくださいます。喜びは、喜んで聖霊に支配されるすべての人々のためのものなのです。

「主を喜び祝うことこそ、あなたがたの力の源である。」（ネヘミヤ8・10）

「お前の主なる神はお前のただ中におられ、勇士であって勝利を与えられる。主はお前のゆえに喜び、愛によってお前を新たにし、お前のゆえに喜びの歌をもって楽しまれる。」（ゼファニヤ3・17）

私たちは聖霊の導きの中を歩くとき、聖霊が私たちを支配するとき、聖霊は私たちの人生に喜びを生み出してくださいます。喜びは、喜んで聖霊に支配されるすべての人々のためのものなのです。

「主を喜び祝うことこそ、あなたがたの力の源である。」（ネヘミヤ8・10）

「お前の主なる神はお前のただ中におられ、勇士であって勝利を与えられる。主はお前のゆえに喜び、愛によってお前を新たにし、お前のゆえに喜びの歌をもって楽しまれる。」（ゼファニヤ3・17）

私たちは聖霊の導きの中を歩くとき、聖霊が私たちを支配するとき、聖霊は私たちの人生に喜びを生み出してくださいます。喜びは、喜んで聖霊に支配されるすべての人々のためのものなのです。

「主を喜び祝うことこそ、あなたがたの力の源である。」（ネヘミヤ8・10）

「お前の主なる神はお前のただ中におられ、勇士であって勝利を与えられる。主はお前のゆえに喜び、愛によってお前を新たにし、お前のゆえに喜びの歌をもって楽しまれる。」（ゼファニヤ3・17）

私たちは聖霊の導きの中を歩くとき、聖霊が私たちを支配するとき、聖霊は私たちの人生に喜びを生み出してくださいます。喜びは、喜んで聖霊に支配されるすべての人々のためのものなのです。

「主を喜び祝うことこそ、あなたがたの力の源である。」（ネヘミヤ8・10）

「お前の主なる神はお前のただ中におられ、勇士であって勝利を与えられる。主はお前のゆえに喜び、愛によってお前を新たにし、お前のゆえに喜びの歌をもって楽しまれる。」（ゼファニヤ3・17）

私たちは聖霊の導きの中を歩くとき、聖霊が私たちを支配するとき、聖霊は私たちの人生に喜びを生み出してくださいます。喜びは、喜んで聖霊に支配されるすべての人々のためのものなのです。

「主を喜び祝うことこそ、あなたがたの力の源である。」（ネヘミヤ8・10）

「お前の主なる神はお前のただ中におられ、勇士であって勝利を与えられる。主はお前のゆえに喜び、愛によってお前を新たにし、お前のゆえに喜びの歌をもって楽しまれる。」（ゼファニヤ3・17）

私たちは聖霊の導きの中を歩くとき、聖霊が私たちを支配するとき、聖霊は私たちの人生に喜びを生み出してくださいます。喜びは、喜んで聖霊に支配されるすべての人々のためのものなのです。

「主を喜び祝うことこそ、あなたがたの力の源である。」（ネヘミヤ8・10）

「お前の主なる神はお前のただ中におられ、勇士であって勝利を与えられる。主はお前のゆえに喜び、愛によってお前を新たにし、お前のゆえに喜びの歌をもって楽しまれる。」（ゼファニヤ3・17）



司令官ケネス・メイナー大佐及び軍国女性部会長シェリル・メイナー大佐は3月末で離日されます。感謝しつつ英国での新しい任命の上に神の祝福を祈ります。

〈連載〉 聖潔の流れに立つ 第十五回

ブレングルの生涯と聖潔

中将 吉田 眞



一般論として言うならば、人の思想や考えは、突然生まれてくるものではない。いろいろな環境や状況と、その中で経験を経て、思想が構築されるものである。経験や環境という場合、物理的な環境とともに、思想的な環境も当然その中に含まれる。歴史上の偉大な人物と言われる人に限らず、誰もが、誰からか、何らかの影響を受けているのであって、その影響が、本人の意図的な働きによる場合と、そうでない場合とがあるにしても、他人から受ける影響は大きいと言える。

その意味では、サムエル・ローガン・ブレングルにおいても同じである。実際、ブレングルに影響を与えた人たちがおり、その感化は大きい。しかし、信仰者であるブレングルにおいては、そこに神、すなわち聖霊の影響というものが加味される。いや、むしろ、実際には、ブレングルにおいては、聖霊の感化が究極的にはそのすべてであると言ってもよいかもしれない。

そこでこの原稿においては、まず、ブレングルの生い立ちに目を留め、その中で聖霊がどのように彼の聖潔に対する考えを構築させていったかを考えることとする。その後、彼の聖潔に対する考えそのものに注目してみたいと思う。

その生い立ち

一八六〇年、父ウィリアムと、母レベッカ・アンの

間に米国で生まれた。両親は熱心なメソジストであり、父は日曜学校の校長であった。一八六二年、父ウィリアムは、南北戦争での負傷がもとで召天。その後二年半、母と二人だけの生活を送ったが、この間に、母との深い精神的、霊的絆ができた。母の感化は大きかったと思われる。一八六五年、母再婚。義理の父は医師であった。一八六八年、義父は、医師を辞め農夫となり、各地を転々とする。家族で農業に従事したが、忙しく、きつい仕事であった。そのためか、学校へは、冬の間通うのみであった。この間に、自然に対する愛着が育った。また、孤独を経験するが、その中で、読書に明け暮れ、「想像力」が育った。

一八七二年、十二歳の時、所属する教会の集会で回心の思いが生じたが、その晩は決心しなかった。翌年の一八七三年、同じ教会でのリバイバル集会有り、五日間続けて招きに応え、恵の座で祈ったが、何の感度もなかった。

五日目の晩は、母と祈った。「あなたは、みんなの前で自分を神様に明け渡したのだから、後は、神様に信頼するだけです」と母に言われたが、それでも、なお、自分が神様に受け入れられたという確証は得られなかった。数週間後、母と祈禱会へ行く途中、聖霊に触れられる経験をし、救いの確証を得た。母の言葉の中に、後にブレングルが到達する、聖潔が感情ではなく、神の約束に対する信頼であることの意味を見いだすことができる。

そのときの様子をブレングルは次のように証ししている。

「五日間、毎晩、救いを求めて恵の座に出た。しかし、皆が言うような、霊的高揚、火に触れられる経験、すばらしい特別な経験を期待したが、何も起こらなかった。とにかく、特別な感情もなく、自分を神に明け渡し、恵の座から立ち上がった。しばらくして、聖霊に触れられた。特別なスリルもなく、幻も恍惚感もなかった。しかし、それは、平安と確証と神に受容された確信と、祝福された実感であった。私の内的な

存在を全く支配してくださる神の恵みだった。優しい、包み込むような温かさであった。そのときの気持ちを一言で言えば、『祝福されている実感』であった。」

一八七五年、ブレングルに大きな感化を与えた母が召天した。ブレングルは、一八七七年秋、インディアナ・アズベリー（現デポ）大学に入学。父と同様、日曜学校の校長としても奉仕をした。一八八三年、インディアナ・アズベリー大学を卒業し、神学士の学位を得た。卒業したサムエルは、田舎の小さな教会に赴任し、四つの教会を巡回伝道した。そのどこでもリバイバルが起こった。

当時を振り返り、ブレングルは、「このような、高い教育を受けていなかった人たちの間での奉仕を通して、本当の説教の基本を学んだ。それは、謙遜と簡潔である」と述懐している。

一八八四年秋、ボストン大学神学部に入學し、在学中に聖潔について考えるようになった。何人かの人たちがブレングルに影響を与え、その中で、彼は「人は聖められ得る」ことを確信した。

彼に影響を与えた人たちの中には、まず、ドワイ・ト・L・ムーディがいた。ブレングルの言葉を借りるならば、彼（ムーディ）は、「聖霊のバプテスマについて語った。それはわたしにとって新しい啓示であった。初代教会の経験であると思っていたが、彼は、誰でも経験することのできる、現代の経験であり得ると語った」存在であった。聖潔の教理に関する指導的学者、ボストン大学神学部の教授であったダニエル・ステイールは、個人的に、ブレングルに、聖潔の可能性に關しての聖書の学びを導いた。ハンナ・スミスの著書『クリスチャンの幸せな生活の秘訣』による影響もあった。また、言うまでもなくジョン・ウエスレー、ウィリアム・マクドナルド、カサリン・ブースなどからの影響も受けた。

（続く）

東日本大震災から 10 年

「絆フレンズ」^{きずな}「恵プロジェクト」^{めぐみ} 前責任者
アンディ&ローナ・ギルバート

東北の人々のこの10年間を振り返り、多くの人々、そして救世軍を通して、神様がどのように人々の暮らしに働きかけてきたかを思い出すことは大切なことでしょう

振り返る中で、まず、この恐ろしい出来事の影響を受けた多くの生活を思い出さなければなりません。生活の破壊と喪失は信じられないほどでした。多くの人々が、津波で亡くなった家族や友人を悼んでいます。回復しつつある中でも、刻まれた記憶は、しばしば私たちの目に涙をもたらします。ある人にとっては、恐怖はまだ地表のすぐ下にあり、ごく小さな揺れにもその恐怖は爆発するのです。

毎年3月11日に心に湧き上がる多くの感情の中で、これらの最も困難な瞬間に、それぞれの人々に神様がどのように会ってくださったかを思います。神様の憐れみの思いは、世界中、特に日本国内の多くのキリスト教団体や教会に広がりました。神の愛は、イエスの教会が来て、人々に奉仕し、愛し、共に泣いた、という中で明確に示されました。私たちが、石巻と女川で人々と共に歩むことができたことは光栄でした。人々は、私たちにその心と経験、そして愛を分かち合ってくださいました。悲しみの中でさえ、回復を共に分かち合い、神様が人々の心に届く、という希望を見ることができたので、私たちはとても感謝しているのです！

東北の人々のことは、忘れられていないことを知っています。多くの人々の人生が普通の感覚に戻る中で、イエス様があなたの日常生活の真っ只中にいてくださることを祈り続けます！ イエス様はお一人おひとりを愛しておられます。日本の皆様が、どうか、日々、イエス様に依り頼みつつ、その恵みと愛がその人生を力強く導いてくださるよう願っています。それが、私たちの祈りです！

仙台小隊小隊長及び災害対策室東北分室 中尉 栗飯原 順

私と妻は、4年前の3月末に現任命を受け、週の内4日を宮城県石巻市の住宅から女川町の仮設商店街「きぼうのかね商店街」内の事務所に出勤し、残りの3日を小隊で過ごすという生活がしばらく続きました。女川での主な任務は、現地の方々と親しくなって霊的なニーズに^{こた}えることと、支援先の5つのNPOを3カ月ごとにモニタリング（進捗確認とニーズの把握）し、本営とSAWSO（救世軍ワールド・サービス・オフィス）への報告書を作成することでした。

東北という土地柄、人間関係を築かなければ仕事を進めることは難しく、良いアイデアはないかと模索していたところ、レボリューションハワイ（REVHI）の来日を聞き、真っ先に手を上げて招聘が決まりました。REVHIメンバーは、よく訓練されていて、暑い中、旧仙台小隊会館で寝泊まりをし、仙台小隊と近隣の方々のために、また女川の支援先「恵プロジェクト」や「女川向学館」でのイベント、「きぼうのかね商店街」と南三陸町にある公民館で奉仕をしました。REVHIはどこでも快く受け入れられ、多くの方々と巻き込むことができ、これをきっかけに、仙台小隊の近隣の方々と支援先や被災地の方々と親しくなることができました。

2020年中に各NPOに対する金銭的な支援は終了しましたが、救世軍がコミュニティの回復に携わることができたことは良かったと思います。その後も支援先であったNPOとは良い関係を続けています。コロナ禍で心配をしておりましたが、「恵プロジェクト」では、寄付された中古着物をほどこいて新たな商品価値をつけて販売されているのですが、観光

客減で店舗での販売は厳しいものの、インターネット販売を続けられています。前責任者で働きを始められたアンディ・ギルバート宣教師夫妻は、8年間にわたり女川町のコミュニティのために尽力され、1昨年に米国に帰国されましたが、毎朝仕事開始前の礼拝や交流が実って、その後、一人の女性が救われました（『とこのこえ』〈福音版〉3月号に証言掲載）。本当に嬉しいニュースです。石巻からの伝道師や若い日本人宣教師夫妻が「恵プロジェクト」に関わっておられるので、さらに救われるようにと共に祈っています。また、アンディ氏と聖書の学びを続けてきた女川の青年は救世軍につながり、毎週の聖書の学びを継続し、仙台小隊での士官学校のキャンペーンでは賛美ライブに、ボーカル&ギターとして参加、軍国音楽祭にも参加してくださいました。

昨年10月、今年3月11日で10回目となる「宮城三陸3.11 追悼コンサート」（今年はインターネットで配信予定）のインタビューのため、支援先だったNPO「きらら女川」の責任者をお訪ねしてきました。「きらら女川」は、障害者就労支援施設を運営する傍ら、「シーパルピア女川（商店街）」でレストランも経営しています。このような状況下で、インタビューを引き受けてくださるかどうか心配でしたが、将来のビジョンを力強く語ってくださいました。「きらら女川」は、その母体である夢食研株式会社と協同し、「さんまパン」をはじめ、特許製法で加工した「生わかめ」、「おからかりんとう」等、オリジナリティあふれる商品を生み出していますが、経営は大変であったそうです。そんな中で、自分たち以上に困っている人がいることを念頭に、「こども食堂」を月1回のペースで継続して開設し、集まる場所を提供しておられます。40人くらいの子どもが集まるそうです。感染防止対策をしながら、子どもたちと交わることは大変であると想像しますが、集まることの大切さを訴えておられました。自分たちのことで精一杯な状況にもかかわらず、町が立ち上がるため、他者のために尽力しておられる姿に敬服いたします。

また、昨年11月には嬉しいニュースが届きました。支援先だった宮城県登米市にあるNPO「奏海の杜」は、知的障害者に対する放課後等デイサービスをおこなっていますが、困難を乗り越えて、土地を取得し、自前の施設を建築することが決まりました。代表理事の方は大変なアイデアウーマンで、訪ねる度に新しいチャレンジを丁寧に説明してくださいました。他業種からの参入や、制度の変更により、一時は困難を覚えておられましたが、多くの協力者を得て困難を乗り越えてこられたのです。ホームページに「めざす姿」として、「奏海の杜」の合言葉は、「障害があってもなくても、地域を奏でる人になる」とあり、説明には、「障害があってもなくても誰もが自分らしく暮らせる地域へ……太い繋がりを一本作るより、細い繋がりが何本も編まれているネットを作って、お互いができる範囲で支え合って、誰もが主体的に生きられる地域を目指します」とありました。

「きらら女川」と「奏海の杜」の共通点は、事業がうまくいくかどうかだけに集中するのではなく、障害があってもなくても、お互いがどのようにして社会貢献できるかということです。そのようなビジョンを実現するためにも事業計画は大変緻密で多くの方が共感できるビジネスモデルを構築しておられます。具体的に言うと、多くの協力者を得るために大変な努力をしておられるということです。「奏海の杜」は、土地と建物を取得するために、クラウドファンディングを始めましたが、あっという間に目標金額である100万円を超えました。私も個人的に参加したところ、クラウドファンディングの会社から手続き完了の返事が来たすぐ後に、代表理事の方から丁寧なご挨拶が来しました。目標を越えてすごいな、と思っていましたが、しばらくしてホームページをのぞいて（次ページ下段に続く）

集
会
報
告

クリスマス・セレブレーション・コンサート

2020年12月6日(日) 午後7時 オンライン配信

社会鍋デモンストレーション

2020年12月10日(木) オンライン配信

●クリスマス・セレブレーション・コンサート

オープニングは、ジャパン・スタッフ・バンドによるクリスマスの曲(録画演奏)でスタートし、司会の勝篭隆大尉(士官学校)が、救世軍のいくつかの写真と共に活動を紹介した後、スペシャルゲストのゴスペルフォークシンガー Migiwa 氏による賛美がなされました。



コロナ禍にあって、音楽活動に制限がある中、賛美と音楽の力を自ら体験していることを語りつつ、Migiwa 氏はオリジナルソングを含め、「The Christmas Song」、「マリヤにいだかれ」、「あら野のはてに」、「素晴らしい朝」、「みつばさがおおうから」を歌いました。そして、「きよしこのよる」、「オー・ホーリー・ナイト」の賛美に続いて、司令官ケネス・メイナード大佐が、クリスマスの夜、救い主イエスの誕生とイエスを信じることによって、私たちに自由と喜びが与えられた、とメッセージを語り、聴衆のために祈りを献げました。司会者が、いくつかの写真と共に社会鍋をアピールし、オンライン社会

鍋のウェブページ、QRコードが画面に表示される中、杉並小隊の楽隊員3人によるブラスアンサンブルが、クリスマス・カロールを演奏しました。

最後に、ブラスアンサンブルの伴奏で Migiwa 氏が「もろびとこぞりて」を賛美して配信を終了しました。(動画視聴回数 1,893 回 1月13日現在)



(写真上より)

・美しい照明の中で、心を込めて賛美をする Migiwa 氏
・クリスマスの喜びを届けつつ、社会鍋のアピールもなされた

●社会鍋デモンストレーション

12月10日(木) 午後3時30分から、東京地区での社会鍋が開始することに合わせ、救世軍公式 YouTube で生配信をおこないました。本営の玄関前に社会鍋が立てられ、ジャパン・スタッフ・バンドから4人の楽隊員が参加し、クリスマス・カロールを演奏して近隣の方へも社会鍋の開始をアピールしました。前を通る方々には、オンライン社会鍋のチラシも配布しました。

司会は、伝道事業部長山谷真少佐。社会福祉部長石川一由紀少佐は、去年の社会鍋の実績報告をしつつ、「今年はコロナ禍の制限がある中で、感染予防に努めながら街頭募金もおこなうが、オンライン社会鍋を中心に進めていきたい」とアピールをしました。バンドによるクリスマス・カロールの演奏に続いて、司令官ケネス・メイナード大佐がクリスマス・メッセージを語りました。

このデモンストレーションの模様を CGNTV と NHK-



BSが取材し、CGNTVは翌日からインターネットのニュース番組として放映し、NHK-BSは2021年1月15日(再放送1月22日)の「新日本風土記」の中で取り上げました。「新日本風土記」では、街頭給食の様子や、京橋小隊の藤原忠重兵士のインタビューも放映されました。

(前ページより) 見たところ、「次の目標は300万円です」とあり、思わず笑ってしまいました。代表理事の顔が浮かびました。ユーモアに加え、支援者とキャッチボールを楽しみながらファンディングするなんて、なんてすばらしいアイデアかと思いました。見做うところが多くあります。

救世軍は、東日本大震災直後から、給食支援、車や漁船、発電機の提供、仮設商店街や「きぼうのかね商店街」の建築支援などインフラ支援と共に、NPOの事業に経済的な支援をおこなったことは、被災地において、生業を再開、事業の再始動、新規事業の立ち上げの後押しをする良いきっかけとなり、コミュニティの回復に貢献できたと思っています。そ

して、各支援先が困難な中でも決して希望を失うことなく大きなビジョンを掲げて前進しておられる姿を見ると、10年目からの発展に大いに期待しています。

最後に、SAWSOとの事業計画の難しい折衝、報告関係を担ってくださった那倉基夫さん(プログラムディレクター)に感謝をしたいと思います。那倉さんにはこの計画の実行は難しかったと改めて思います(那倉さんは支援計画の終了の昨年7月末に退職)。遠方にもかかわらず、モニタリングのために何度も現地に足を運んでくださり、支援先との良い関係の構築に尽力してくださいました。改めて感謝いたします。

集会 報告

「SA麻布レジデンス」竣工式

2020年12月24日(木) 午前10時 救世軍 NEW HOPE 麻布

初野戦

2021年1月2日(土) 午後2時 オンライン配信

●「SA麻布レジデンス」竣工式

麻布小隊跡地に「SA麻布レジデンス」が竣工しました。竣工式に先立ち、書記長官西村保大佐補の指揮によって、テープカットがおこなわれ、続いて1階部分の「救世軍 NEW HOPE 麻布」において、竣工式がおこなわれました。新型コロナウイルス感染症拡大を考慮し、本営及び建築関係者に出席者を限定しました。

午前10時、司令官ケネス・メイナー大佐司式のもと式は進められ、書記長官の歓迎の挨拶、この建物でクリエイティブ・アーツの働きをする、リエン・ラボシエール特務曹長の挨拶の後、司令官は、廣瀬不動産株式会社 代表取締役社長 廣瀬慶太郎氏及び、積水ハウス株式会社 東京北シャーマゾン支店長 根本遵氏に感謝状を贈呈しました。続いて、両氏より御挨拶をいただきました。また、司令官秘書中島美和大尉のギター伴奏によって、朝澤真生さん(杉並)が賛美のプレゼントとして、クリスマスの歌を歌いました。司令官は、「新しい希望」と題して、メッセージを語り、会衆一同でクリスマスの賛美を歌い、最後に、軍国女性部会長シェリル・メイナー大佐が祈祷を献げて、閉会しました。

「SA麻布レジデンス」1階は、「救世軍 NEW HOPE 麻布」として、救世軍の新しい宣教拠点となります。2月より、「救世軍麻布 New Hope」というプログラム名で、英会話や絵画教室を通して地域の子どもたちや青年たちに福音を伝える働きをおこなっています。2～4階は廣瀬不動産と救世軍の共同管理によるマンションとなります。



(写真左より)

- ・SA麻布レジデンス外観(1月19日撮影)
- ・テープカットを待つ玄関
- ・メッセージをする司令官
- ・廣瀬氏に感謝状を手渡す司令官
- ・挨拶をする根本氏
- ・「救世軍 NEW HOPE 麻布」部分(1月19日撮影)



●初野戦

ジャパン・スタッフ・バンド(JSB)による録画演奏「いつくしみ深き」でスタートしました。書記長官西村保大佐補が、新年の挨拶をし、今年の日本軍国標語「主によって練られ、備えよう」をマラキ書3章3節の言葉と共に紹介しました。続いて、今年の救世軍のテーマソングが紹介され、JSBがその演奏をしました。

その後、スペシャルゲスト(写真下左)による賛美の時。中山有太牧師(イエス・キリスト神の愛教会の枝教会シャインチャーチ牧師。作詞作曲を多く手掛け、ワーシップCDを制作)がギターとボーカル、中山告氏によるピアノで賛美し、「詩編100」、「求めて」の歌を通して福音を伝えました。最後に、司令官ケネス・メイナー大佐(写真下右・通訳の中島美和大尉と共に)が、「心の中にある主の臨在」と題してメッセージを語りました。

(YouTube 視聴回数 662回 1月26日現在)



NEWS!! NEWS!!

各地のニュース!!

機恵子寮

●「グッドライフアワード受賞式」に参加して

施設長 高田祐介

2020年12月5日(土)、環境省主催の「第8回グッドライフアワード」の表彰式がおこなわれ、私(写真上左側)も参加させていただきました。今回嬉しいことに、機恵子寮の子どもたちと共に活動している「東京里山開拓団」の活動が「環境大臣賞最優秀賞」に選ばれました。

振り返ること8年前、東京ボランティア・市民活動センターに勤務する大学の後輩から「東京里山開拓団」を紹介され、その代表をされていた堀崎茂さん(写真上右側)と出会ったことをきっかけに始まったのが、機恵子寮の子どもたちと「東京里山開拓団」による開拓活動です。最初の頃に参加していた子どもたちは機恵子寮を卒業し、二十歳を迎える頃となりました。

この度受賞した「第8回グッドライフアワード」には、全国から、192の取り組みがエントリーされていたと聞きました。その中から環境大臣賞を受賞した活動の紹介と表彰式があるとの案内を受け、堀崎さんと共に参加させていただきました。新型コロナ感染防止対策により、来場者は限られていましたが、他の部門賞や優秀賞を受



受賞者一同で。前列右端筆者。隣に堀崎氏

賞された方々も集い、それぞれの取り組みが次々と紹介されました。自然環境と何らかの接点をもち、そこから様々な付加価値を生み出す活動の数々にワクワクしながら聞き入りました。

機恵子寮が「東京里山開拓団」の方々と活動を続けてきたのは、第1回に参加した子どもたちが「また行きたい」と言ったことが大きな理由です。そして回を重ね、参加する子どもの世代が移り変わっても、子どもたちは「また行きたい」と言います。子どもたちが「また行きたい」と言うのは、里山が子どもたちのありのままを受け止めてくれるからだとは私は感じています。里山は、子どもたちを否定もしなければ、褒めたりもしません。ただ、彼らの存在をそのまま受け止めている。山の中で過ごす子どもたちは、きっとそのような感覚を味わっているのではないかと思います。

今回の受賞をきっかけに、機恵子寮での施設生活における「東京里山開拓団」との活動の意味を子どもだけでなく、機恵子寮の職員とも考えてみたいと思います。そしてこれからも、子どもたちと一緒に「ありのまま」でいられる里山でのひと時を楽しみたいと思います。

清瀬小隊

●准兵士宣言

2020年12月20日クリスマスサンデーに、吉田司少佐の導きによって、准兵士宣言がありました。石牟禮昭仁准兵士誕生です。非常に熱心な方で、「聖書を5回読みました」、「今、お祈りしていました」など、いつも前向きな証言をしています。

コロナ禍のため、昨年4月にする予定でしたが、12月となりました。3月には兵士入隊を計画しています。

戦友一同で新しい准兵士の誕生を感謝しつつ、これからの歩みへの祝福を祈りました。



関東東北連隊

●連合聖別会&新年親睦会

1月10日(日)11時より、6小隊と1分隊をオンラインでつなぎ、画面を共有するかたちでおこないました。

連隊長藤井健次大佐補の指揮のもとに進められ、連隊内からの成人者の出席はありませんでしたが、成人を迎えられた和田智輝さん(高崎)のために、連隊女性部書記藤井千明大佐補が祝福のお祈りをしました。連隊長は、「主によって練られ、備えよう—キリストによって」と題して、説教をしました。

集会後には、オンラインでの顔合わせの時をもち、互いに新年の挨拶を交わしました。今回初めてこのような形で連合聖別会をおこないましたが、コロナ禍にあっても、イエス・キリストへの信仰によって、主による取り扱いを受けつつ新しい年を歩む決意をする時となりました。



〈ご案内〉

『恵みを伝える者』の学年

士官任官式及び新任士官任命式

3月21日(日) 午後3時 オンライン配信

メッセージ:司令官 ケネス・メイナー大佐

奏楽:ジャパン・スタッフ・バンド

新任中尉によるプレゼンテーション上映

大森小隊

●田中禎一少佐、
千枝子少佐引退式

2020年12月
20日クリスマス
・サンデーの聖別
会に、東京東海道
連隊長石川和男少
佐及び連隊女性部
書記石川節子少佐夫妻を迎えました。

席上、大森小隊出身士官であり、小隊曹長の任を負っている、田中禎一少佐と、田中千枝子少佐の引退式が連隊長司式でおこなわれました。息子さん夫妻（寛さん、美杏香さん）も出席し、小隊の戦友や関係者と共に、夫妻の長年の奉仕に感謝し、今日までの歩みを導き支えてくださった主の聖名をあがめる時となりました。（会衆19人）



士官志願者部・霊的生活成長部

●「祈りの実を結ぶ」8週間の祈りのプログラム

わたしたちには多くの願いや求めがあります。福音を宣べ伝えるために士官志願者が与えられることは軍国にとって痛切な願いであり、また、コロナ禍で多くのことが規制される中にも、救世軍に霊の火が煌々と燃やされ続けることは、大きな願いです。

「何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい」（フィリピ4・6）との聖書の言葉に従って、昨年10月4日の士官志願者サンデーから11月28日（土）まで、8週間の祈りの時が計画されました。「賛美」「聖霊の力」「悔い改め」「感謝」といった、週ごとに掲げられたテーマに沿って祈りの時をもつことができるよう、デボーションのガイドブックを準備し、全救世軍人の参加をお願いしました。

その中で、最初と最後の日曜日は士官志願者のために祈り、示された方の名前を書いた折り紙を「祈りの実」として送っていただくようお願いしたところ、現在（2021年1月12日）までに、255個の「祈りの実」が届けられました。鶴やハート、サンタや象など、さまざまな色や形の折り紙で、用意したツリーがいっぱいに埋め尽くされています（写真右）。人の祈りはすべて、父なる神様の御前に時空を超えてとどまっている訳ですが、今回、北は北海道から南は九州まで、全国各地から届いた多くの方の祈りを、折り紙の形で目にすることができたことは大きな感動です。

「どんな願い事であれ、あなたがたのうち二人が地上で心を一つにして求めるなら、わたしの天の父はそれをかなえてくださる。」（マタイ18:19）課題の大きさがいかほどであっても、この約束に希望を新たにしたいと思ひます。今回、「祈りの実を結ぶ」輪に参加してくださり、



ありがとうございました。

この祈りの8週間、皆さんは、どのように過ごされていたでしょうか。どのような感想をもたれたか、士官志願者部（mail: jpn.candidates@jpn.salvationarmy.org）まで、ぜひ、お声をお送りください。

神様は、あなたを必要としています。

あなたは召されていませんか？

18歳～48歳の方で、救世軍士官として生涯を献げて奉仕するよう、神様から召命を受けている方は、小隊長または下記士官志願者部までご連絡ください。

救世軍本営 士官志願者部（救世軍士官学校内）
電話 03-6256-8262

YP (青少年部)・ファミリーニュース

祝成人!

今年も、救世軍各所で新成人をお祝いしました。



遠軽小隊：大江未歩さん、帯広小隊：吉方あゆみさん（写真上左及び下）、高崎小隊：和田智輝さん、杉並小隊：石坂太陽さん（写真上右・1月10日(日)、杉並小隊でのバイリンガル礼拝で、司令官ケネス・メイナード大佐より成人を祝う記念品を受け取る）、大森小隊：鶴ヶ崎新陽さん、清瀬小隊：小川光太郎さん、佐藤礼虎さん、末松陽太朗さん、高倉峻之介さん、泉尾小隊：石田怜子さん、天満小隊：田中優希さん、高松小隊：丸畑理歩さん、加藤寧音さんでした。

神様の豊かな祝福がありますようお祈りいたします。



帯広小隊では、1月10日(日)の聖別会の席上、吉方さんの成人を祝う時をもちました。

ユース・セミナー2021 3月12日(金)～13日(土)

テーマ「WTS!!! ～What the salvation!!! ～何という救いだあ!!!」

(ヨハネ3章16節)

特別講師：大嶋重徳師(元KGK総主事、現鳩ヶ谷福音自由教会牧師)

開催方法：インターネット開催 (ZoomとYouTube)

※詳細は青少年部からの案内を御参照ください



■青少年部主催オンラインコンサート

2020年12月11日(金)、ゲストに「ナイト de ライト」(北海道を拠点としたクリスチャンアーティスト)を迎え、希望のメッセージに満ちた賛美を参加者と堪能しました。「ナイト de ライト」は、「きみはそれで素晴らしい」「NIJI」「すっぽりはまる」「翼」「最高のクリスマス」「Granny」「撚り糸」「ポラリス」の8曲を熱唱しながら、救い主イエス・キリストの誕生の喜びを、青年たちにわかりやすく伝えてくださいました。

公開のクリスマスコンサート後には、予約制でZoomによるユースナイトを開き、「ナイト de ライト」のメンバーにも引き続き参加していただきました。ゲームと質問タイムを設け、質問タイムでは「ナイト de ライト」から、音楽にまつわる話、音楽を通してどのように主に仕えるか、などのお話を聞くことができました。

コロナ禍で、共に集うことが難しい現状ですが、オンラインという新たな方法で全国の青年たちと繋がっていることに感謝しています。(コンサート 平均視聴者33人、最高視聴者41人、Zoom ユースナイト参加者14人)



(写真上左より)・上野小隊でカレーを煮込んだ大鍋・上野小隊での配膳準備・山谷地区での給食支援準備 (写真下左より)・福山小隊での生産者支援品特別販売当日の様子①・福山小隊での生産者支援品特別販売当日の様子②・横浜小隊での街頭生活者支援



社会鍋による支援

前橋小隊

●施設支援

2020年12月22日(火)に、「前橋老人ホーム」を訪問し、入所者に靴下をプレゼントしました。

12月25日(金)には、「母子生活支援施設「のぞみの家」」を訪問し、各世帯向けのケーキと子どもたちへのお菓子の詰め合わせをプレゼントしました。

岡山小隊

●コロナ禍にある生産者支援

12月23日(水)、米農家佐藤商店(新米にこまる5キロ)と果物加工会社岡山一果(ゼリー6個セット)と就労支援事業所ゆめファーム(シュトーレン)からそれぞれ商品を買取り、地域の方々に安価(1セット3品千円)で買っていただくサイクル支援をおこないました。コロナ禍にあって皆が大変な中、食べて応援し、労を労いつつ笑顔になれたら、と願い医療従事者や表町商店街、子育て世帯にチラシを配りました。「クリスマスプレゼントをもらったみたいだわ」と子育てママが喜んで品物を手にしていました。また、社会鍋になじみのある近所の方々や表町商店街から多くの方々が協力してくださいました。『ときのこえ』クリスマス特集号を添えて、社会鍋も出して協力を求めつつ、協力者には手作りマスクをお渡ししました。(支援先3件、受益者50件、奉仕者3人)

高崎小隊

●施設等への支援

児童養護施設「希望館」(2カ所)には、毎年一人ずつにデザインの異なるハンカチを用意して、クリスマス・プレゼントとして届けています。今回は、クリスマスケーキも一緒に届けることができました。他に、街頭生活者支援をしている団体へ、クリスマスプレゼントと米30キロを寄贈しました。

●幼稚園から頂いた社会鍋への献金

市内の「みどり幼稚園」の園児が集めた社会鍋への献金が小隊に届きました。

上野小隊

●山谷での給食支援(写真前ページに掲載)

2021年1月10日(日)、毎月おこなっている山谷地区での給食支援をおこないました。

今回は、手づくりカレーの弁当を詰めて、配布しました。医療機関に勤務している方々は、小隊内での準備に従事しました。その後、新型コロナウイルス感染予防対策に努めて、屋外で、69の方にカレー弁当を渡すことができました。配布には、日本長老教会千住キリスト教会の牧師夫妻と、日本国際飢餓対策機構のスタッフがボランティアで参加してくださいました。



(写真上左より)
・「前橋老人ホーム」にて
・「のぞみの家」にて
・岡山小隊生産者支援当日
・同上支援の品(米5キロ、ゼリーセット、シュトーレン)
・「希望館」
・「希望館 大橋の家」
・「みどり幼稚園」園児からの社会鍋への献金

福山小隊

●コロナ禍にある生産者支援(写真前ページに掲載)

1月23日(土)午後、新米5キロ(米農家佐藤商店)、味付けちりめん、ホタテ昆布、くるみ小女子のセット(珍味本舗福利物産)を救世軍で買い上げ、地域の皆さんに千円で提供しました。農家は、飲食店の客の減少によって米の販売先が激減し、「これがいつまで続くのか」と不安を抱えていました。生産者支援特別販売のお知らせをタウン誌に掲載してもらい、近所の方以外にも福山市全体から、購入申し込みがありました。あいにくの雨の中でしたが、多くの方が小隊に買いに来てくださいました。1カ月で40キロを消費するという子育て中のお母さんが「ほんとに助かるよ～」と喜んでくださいました。(支援先2件、受益者50件、奉仕者5人)

横浜小隊

●冬期街頭生活者支援(写真前ページに掲載)

1月より、毎年おこなっている冬期街頭生活者支援を継続しています。コロナ禍により、ボランティアを募集せず、感染予防に努めながら支援しています。

克己週間募金

パートナーズ・イン・ミッション

募金目標 10,477,500円

日本の救世軍は、バングラデシュ地区、カナダ及びバミューダ軍国、ラテンアメリカ北部軍国、リベリア及びシエラレオネ地区、マラウイ軍国とパートナーの関係にあります。昨年は、マラウイの反児童人身取引の働きのために直接支援がおこなわれました。ムチンジにある反児童人身取引センターでは、1月に、コロナ禍にあって増加しつつある人身取引を予防するための啓蒙活動や、救出活動に関するワークショップが開催され、ムチンジ地域の人々の対策強化の機会となりました。

今年は、日本軍国として、コロナ禍にあって教育活動への対応が必要になっている国々のニーズを聞き、教育支援のために用いることを計画しています。リベリアでは、すでに救世軍の運営する学校で迅速なリモート学習の対策が取られ、効果を生んでいます。また、学校入り口に手洗い設備を設置し、感染予防に努めて対面授業も少しずつ再開しています。

また、バングラデシュ地区にある、搾取の中にあつた人々への職業支援「OTHERS」の製品は、日本の救世軍出版供給部で購入できます。支援の一つとして、ぜひ買い求めください。



(写真上より)

- ・リベリアの救世軍の学校では、新型コロナウイルス感染症の予防対策をとりながら、学校を再開した
- ・リベリアの学校入り口に設けられた手洗い設備



(写真左より)

- ・マラウイの反児童人身取引センターに保護されている3人の児童。現在、男児7人、女児1人が保護されている
- ・施設のある地域の人身取引防止及び救出のワークショップに集った人々

3月5日(金)世界祈禱日

今年は、バヌアツのためにお祈りします。
コロナ禍にあるため、共に祈る時(日付の変更も含めて)を柔軟に設定して、少人数で集うことやオンラインでおこなうことも奨励されています。
世界の人々と心を合わせて祈りましょう

【お知らせ】

オンライン社会鍋は、
3月末まで
受け付けております
引き続きご協力をお願いいたします



酒害強調週間

3月28日(日)～4月2日(金)

お酒は人生に深刻な悪影響を与えます。
周りの人にも酒害について伝えましょう



4月11日(日)～24(土)

♪ ♪ 救世軍音楽週間 ♪ ♪

神への賛美と神の福音を
音楽によって人々に届けましょう！

進級を祝う日曜日 4月4日・イースター

子どもたちの新生活を祝い、祈って応援しましょう

4月4日(日) 士官候補生歓迎集会

『聖潔を映し出す者』の学年候補生
吉田慎也候補生(天満小隊出身)を歓迎しましょう！

〈連載・第9回〉

神の呼びかけ ～神の民となるために～

(4) 恵の座への呼びかけ

(承前) 悔い改めのベンチが、救いを求めて罪を悔い改める人々のために用いられるよう意図されていたことは疑いの余地がありません。それは単なる「祈りの場」ではなかったのです。ウィリアム・ブースは1876年に、息子のブラムエルに宛てた手紙の中でこのように書いています。「心騒がせている人と接する際には、深く罪の責めを感じ、救いを真摯に求めているのでなければ、悔い改めのベンチに進み出るよう促してはいけません。心の目が開かれ、神の前に打ち砕かれているほど、彼らはキリストへの信仰を働かせ、平安を得ることができ、その後も安定した状態を保つことができる。」

「恵の座」と「悔い改めのベンチ」という用語は、救世軍初期の頃から同意義で使われていたようです。

『創立者の言葉 (Founder Speaks)』の中に、次のような記録が残されています。「日本を訪問した際に開催された、ある大都市でのすばらしい集会の中で、ある女性が恵の座に進み出た。彼女はまず自分自身のために赦しを受け取り、記録室を出ると、すぐさま自分が座っていた場所に戻り、二人の子どもを悔い改めのベンチに連れて行った。そして彼らの間にひざまずいて、自分自身が見いだしたばかりの救い主を指し示した。」

年月を経て、恵の座はより幅広く用いられています。そこは今も罪人が赦しを見いだす場所です。そして霊的な豊かさを深めるためにも、多く用いられているのです。『軍令及び軍律—士官の巻』には、このように書かれています。

「悔い改めのベンチもしくは恵の座（聖別会で用いられる場合には聖潔のテーブル〈holiness table〉）は、救世軍の活動において重要な位置を占めています。これら自体に徳はありませんが、告白、悔い改め、聖別、そして求める者が霊的な導きを受けるための場所として提供されます。」

「悔い改めのベンチあるいは恵の座に出るすべての人は、求道者と呼ばれます。救いを求めて前に出る人は悔悟者 (penitent) と呼ばれ、回復を求める落伍者 (backslider) も同様です。自分の罪は赦されたと信じて立ち上がる悔悟者は、回心者となります。そのような確信がなく恵の座を離れる人は、変わらずに求道者と呼ばれます。」

「聖潔の求道者とは、聖潔の経験にあずかることを求める人を指します。」

これらのことから、恵の座が、告白、悔い改め、聖別、そして霊的導きの場であることがわかります。万国霊的

生活委員会が、救世軍人に対して「神が救世軍に与えられた恵の座には、幅広い意義があることを認識するように」と求めるとき、それは「悔い改めと赦しの場であるだけでなく、交わりと献身の場所でもある」ことを強調しています。そしてこう続けています。「この場所では私たちは、神の豊かな恵みを深く知る経験をし、限りない主の救いを宣言することができるのです。恵の座は、誰でも、いつでも、用いることができます。特に救世軍の集会においては、宣べ伝えられた御言葉に対する応答として、慈しみと謙虚さに溢れた主との交わりにあずかるよう、すべての人が恵の座に招かれています。」

つまり、人が覚える必要の数に応じて、恵の座を用いる理由は数多くあるのです。これが、委員会が「その霊的恩恵が十分に活用されるよう、すべての小隊や施設は努める必要があります」と述べる理由です。

フィル・ニーダムは『ミッションにおけるコミュニティ (Community in Mission)』(日本語未訳)の中で、次のように記しています。

「恵の座は、祈りを伴うあらゆる目的のために用いられるべきだと思います。救世軍人が、さまざまな目的のために共に祈るように、恵の座に招かれることは非常に有益だと思います。残念ながら、あまりにも多くの小隊において、恵の座に出るということは、何か問題があるから、もしくはその人の人生に悲惨な敗北があったからだ、と捉えられています。恵の座に救世軍人が集まり、前向きな祈りを献げることは、そういった妨げが取り除かれる助けとなるでしょう。」

『戦線 (Battle Line)』(日本語未訳)の中でウェスレー・ハリスは、「私たちは、ひざまずいて感謝し、他の人のために執り成し、自らを献げ、キリストと霊的な交わりを分かち合うことができます。そして、私たちの必要が何であれ、神がそれに応答してくださることを確信できます」と言っています。そして恵の座を「恥辱の場所ではなく、恵みの場所」とであると説明しています。

ひざまずくという行為は、謙遜さ、自らに死ぬこと、そして神への服従を表しています。また、神と出会った後に立ち上がるという行為は、新しい命に生まれ変わることを象徴することでもあります。(続く)

〈救世軍兵士のためのオンラインマガジン〉(英文・米・国南部軍国発行)
2月より定期発行のオンラインマガジン『The Salvation Soldier』を読んでみたい方は、以下のアドレスより、直接お申し込みください。
subscribe.salvationsoldier.org



救世軍見解表明

社会道德に対する救世軍の立場 第4回「祖先崇拜」(2)

救世軍の立場の土台となるもの

- (承前) 聖書は、主なる神以外の神を礼拝しないよう、わたしたちに命じています。² 祖先に対して、神に値するような畏敬の念を向けること、または、神だけが与えることができる何かを、先祖がわたしたちに提供できると考えることは、聖書の教えと対立するものです。
2. 救世軍は、イエス・キリストだけが神と人との仲介者であり、彼自身の犠牲が、神と人との隔たりを埋めるのに十分であることを信じています。「神は唯一であり、神と人との間の仲介者も、人であるキリスト・イエスただおひとりなのです。」(テモテへの手紙³ 2章5節) 死者は、生きている者と、神との仲介者となることはできません。
3. 文化は、人間の経験のために必要な情報を与え、それを豊かにするものではありませんが、文化的慣習や価値観が、聖書に優先されるべきではありません。救世軍人には、聖書の原則と調和しない慣行⁴に対して挑戦する義務があります。
4. 救世軍人は、祖先の霊が現在の世界に介入できる力をもっていると信じることを受け入れることはできません。また、死者をなだめる必要も、なだめられないことで何かが起こるかもしれない、と恐れる必要もありません。⁵ 「わたしは確信しています。死も、命も、天使も、支配するものも、現在のものも、未来のものも、力あるものも、高い所にいるものも、低い所にいるものも、他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです。」(ローマの信徒への手紙8章38、39節)

(注2: 参照 特に出エジプト20章3～6節、マタイ4章10節(=ルカ4章8節)、3: 参照 ヘブライ7章24、25節、9章11～15節、4: 『救世軍教理ハンドブック』〈2010〉p.125、及び テモテニ3章16、17節、5: 他に、例えばコヘレト9章10節、イザヤ8章19節、申命18章10、11節、詩編27編1節、イザヤ41章13節)

実際の応答

救世軍は、すべての救世軍人に以下のように呼びかけます

1. 祖先崇拜は、クリスチャンの生活と教えにふさわしいものではないことを認識します。
2. 死者を崇拜の対象と見なさない限り、故人の人生を、愛情を込めて思い出すことは、聖書の教えと矛盾するものではないことを受け入れます。
3. わたしたちのアイデンティティはキリストにあること、そしてイエス・キリストの福音は、聖書で確認さ

れているように、恐れや迷信、誤った信仰、まやかしの希望からわたしたちを解放することを十分に理解します。

4. 死者に対する捧げものには、価値がないことを教えます。しかしながら、悲嘆に暮れる家族に対する実際の支援を与えることの重要性を肯定します。それは、感謝の気持ちを込めて過去の世代を思い出し、祝うこと、また、若い世代に、彼らの継承している血筋を思い起こさせさせることです。
5. キリストの十字架上の犠牲が贖いのために十分なものであること、イエスが神と人の間の唯一の仲介者であることを他の人に教えます。
6. 対話によって、祖先崇拜に関与している救世軍人に助言を与えることを奨励します。
7. 祖先崇拜に関与している人々が、どんなことがあってもキリストとの個人的な関係を持ち、従順な信仰をもって生きるなら、その人は恐れて生きる必要がない、と理解できるよう助けます。
8. 祖先崇拜に関与している人々を排斥^{はいせき}しません。救世軍人は、関わるすべての人々に愛と恵み、配慮や生き方の矯正を示し続け、神との和解を促すよう求められています。(2017年1月大将によって承認)

第5回「環境への配慮」(1)

環境への配慮についての見解表明

救世軍は、人間が、神のかたちに造られ、地球とその中のすべてのものに配慮することが任されてきたということ信じます。

救世軍は、環境の悪化が、今日世界が直面している最も差し迫った問題の一つであり、その影響が、特に、健康、暮らし、避難できる住まい、選択の機会などの観点から、最も脆弱なコミュニティに偏った悪影響をもたらしていることを理解しています。

救世軍は、環境破壊が及ぼす、現在及び将来の世代への影響を懸念^{けんねん}しています。持続可能な環境の実現は、将来の世代の生活を損^{そこ}なうことなく、今日の世界的なニーズと願いを満たすために必要なことです。

見解表明の背景と状況

前世紀において、地球はかつてない壊滅的なレベルでの環境悪化に苦しみ、その結果として、不自然な生物多様性の変化、大気汚染、水質汚染、オゾン層破壊、土壌破壊がもたらされました。大多数の科学的見解は、気温の上昇が、人間の活動によるものであり、さらに極端で予測不可能な気象傾向につながると予測しています。石炭、天然ガス、石油は、2012年には、世界の一次エネルギー消費の87%を占めました。2040年には、液体燃料、天然ガス、石炭が世界の総エネルギー消費の4分の3以上を占めると予測されています。

これらの資源の有限性と急速に拡大する世界人口、そして産業や農村活動への影響を考えると、これらの資源の消費が持続可能ではないことは明らかです。(続く)



中村美代子大尉 天に召さる

中村美代子大尉（旧姓紙谷）は、2020年12月16日、入院中の滝山病院より召天されました。91歳でした。

1961（昭和36）年、天満小隊より『キリストの僕』の学年に入校。1963年7月、中尉に任ぜられ、桐生小隊副官の任を受けました。翌年仙台小隊長の任を受け、1965年大尉に昇任。1966年、沼津小隊長、1969年、横須賀小隊長、1971年、高崎小隊長、1972年、西新井小隊長、と歴任し、1978年、中村茂特務大尉と結婚。1981年に、エバンゼリオンホテル主任の任を受け、1984年、夫君と共に大尉に再任されました。その後、夫君と共に1984年に西成小隊、1992年に男子社会奉仕センターの任を受けられました。1992年、麻布小隊長補佐を兼任、1993年にその任は解かれましたが、2000年に完全引退されるまで、夫君と共に男子社会奉仕センターで忠実な働きを継続されました。1994年、25年永年勤続章を受章。2000年の完全引退後は、清瀬小隊に属し、士官兵士として信仰の良き感化を多くの方にもたらされました。

告別式は12月19日、清瀬小隊長補佐吉田司少佐の司式で、清瀬小隊にておこなわれました。

御遺族の上に神様のお慰めをお祈りいたします。



4月1日、新しい指導者が日本軍国に着任いたします！ 祈りつつ歓迎いたしましょう。

司令官
スティーブン・モーリス大佐
軍国女性部会長
ウェンディ・モーリス大佐

救世軍公報

転任（カッコ内は継続任命）

清瀬病院チャプレン部マネージャー担当
（週二回に変更）

張田直子少佐

補高松小隊長士官

木村敏行少佐

補高松小隊長士官

木村照子少佐

（兼）福岡小隊長補佐の任を解く（八幡小隊長士官、（兼）西日本連隊中国九州地区連隊長補佐）

樋口和光少佐

（兼）福岡小隊長補佐の任を解く（八幡小隊長士官、（兼）西日本連隊中国九州地区連隊長補佐）

樋口愛子少佐

男子社会奉仕センター施設長補佐の任を解く（東京東海連隊本部付、週二回）

田中千枝子少佐

補（兼）軍国CCM書記
（浜谷小隊長士官）

山谷昌子少佐

補（兼）文書部長、（兼）編集部長
（伝道事業部長、（兼）山室軍平記念救世軍資料館運営委員長）

山谷 真少佐

（兼）西日本連隊青少年部書記の任を解く（岡山小隊長士官、（兼）岡山小隊長士官、レボリユーシオン・ジャパン・ディレクター）

石坂臣司少佐

補人身取引対策室付
寺澤真由子少佐

（兼）副医療部長の任を解く（社会福祉部長、（兼）世光寮施設長）

石川一由紀少佐

補泉尾小隊長士官
本村いずみ少佐

補泉尾小隊長士官、（兼）西日本連隊本部付、（兼）西日本連隊青少年部書記

本村大輔大尉

（兼）京都小隊長補佐の任を解く（神戸小隊長士官）

立石真崇少佐

（兼）京都小隊長補佐の任を解く（神戸小隊長士官）

立石友理恵少佐

補（兼）新光館施設長
（男子社会奉仕センター施設長、（兼）社会福祉部付、（兼）二施設統括責任者、男子社会奉仕センター・新光館、（兼）災害対策室付）

岡本貴仁少佐

補神田小隊長士官

高島欣男少佐

補神田小隊長士官

高島恵子少佐
（土官志願者部長、（兼）士官学校教官）

勝範実香大尉

補（兼）杉並小隊長士官
（士官学校教官）

勝範隆大尉

補福岡小隊長士官

三澤直規少佐

補福岡小隊長士官

三澤良子少佐

（兼）医療部チャプレンの任を解く（軍国女性部書記）

西村和江少佐

補月島小隊長士官、（兼）文書部付、（兼）編集部付

平本祐子大尉

補（兼）杉並小隊長士官補佐
（軍国青少年部付）

朝澤まりこ大尉

補（兼）東京東海連隊青少年部書記（軍国青少年部長）

朝澤義人大尉

補高知小隊長士官、（兼）高松小隊長士官補佐

加茂あづさ大尉

補ブリス記念病院、老健施設グレイス及び恵みの家チャプレン長
（兼）医療従事者交友会書記

枡山順子中尉

補京都小隊長士官、（兼）西日本連隊本部付

栗飯原順中尉

補京都小隊長士官、（兼）京都ホステル寮長

栗飯原由美子中尉

機恵子寮付の任を解く

吉田 敬大尉

二〇二〇年十二月三十一日付

桐生小隊長の任を解く

張田 望中尉

二〇二二年一月三十一日付

京都小隊長、（兼）京都ホステル寮長の任を解く

物賀美恵子少佐

京都小隊長の任を解く

物賀靖雄少佐

月島小隊長の任を解く

鈴木雅子少佐

二〇二二年三月二十四日付

男子社会奉仕センター施設長の任を解く（新光館施設長、（兼）社会福祉部付、（兼）施設統括責任者（男子社会奉仕センター・新光館）、（兼）災害対策室付）

岡本貴仁少佐

二〇二二年五月三十一日付

四十五年永年勤続章

三月十一日付 鈴木雅子少佐

四十五年永年勤続章

三月十一日付 藤井千明大佐補

二十五年永年勤続章

三月十四日付 石坂臣司少佐

三月十四日付 石坂奈緒美少佐

張田 望中尉（浜谷小隊長出身は、二〇二二年二月十一日、召天）

引退

鈴木雅子少佐（京都小隊長出身は、二〇二二年三月二十四日付をもって現役を引退）

樋口愛子少佐（熊谷小隊長出身は、二〇二二年三月二十四日付をもって現役を引退）

職務名の変更

【変更前】小隊長・小隊長補佐

【変更後】小隊長・小隊長補佐とする

●転任士官以外の職務名

【小隊長士官】小隊長番号順、夫妻は名前の五十音順、兼任の変更はなし

（北海道連隊）真鍋和枝少佐、樋口光世中尉、加藤直子少佐

（関東東北連隊）田口哲也少佐、中川八重子少佐、細貝のぶ江大尉、細貝信義大尉

（東京東海連隊）吉田恭子少佐、セシヤール・マカチエン大尉、フィリップ・マカチエン大尉、平本宣広少佐、松本泰志大尉、安達かな子少佐、徳永幸次郎少佐、徳永由美少佐、太田晴久少佐、太田廣美少佐、齋藤久美子少佐、齋藤丈夫大尉、熊田光子少佐

（西日本連隊）鈴木真理子大尉、石坂奈緒美少佐、間島年夫特務曹長、間島フタミ特務曹長、吉田有太大尉、吉田輝美大尉

【小隊長士官補佐】友安清中尉、吉田司少佐

●その他職務名の変更

【士官学校教官】坂本恭子少佐

【愛光園チャプレン及び呉保育園チャプレン】吉田輝美大尉

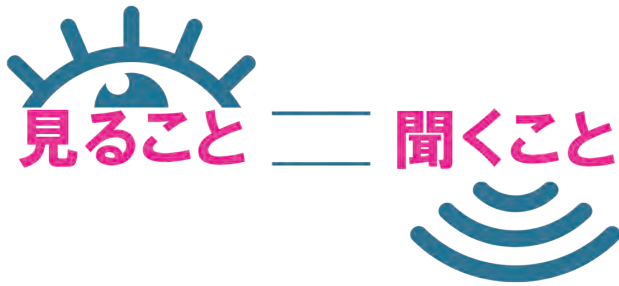
二〇二二年三月二十五日付

司令官 ケネス・メイナ

以上

以上

以上



こどもと青少年のための世界祈禱日

3月28日(日)

テーマ「見ること 聞くこと」

15世紀、イギリスには「子どもたちはよく見てあげるべきであって、聞いてあげるべきではない」ということわざがありました。しかし、わたしたちは、子どもたちを見て

聞くことと、子どもと青少年の声が、小隊の中でとても重要であると考えます。神の国を築き上げるために、神様がそのすばらしい御業と若い人々を通して働きかけてくださり、語ってくださっているからです。

※救世軍公式ホームページで、「子どもと青少年のための世界祈禱日」のための活動アイデアを紹介します。
3月の数回の日曜日を 用いて、アイデアを生かした活動を計画してみてください！

各地の社会鍋アルバム

写真位置

①②
③④⑤

- ①高崎小隊会館前の社会鍋
②銀座での社会鍋
③佐野小隊社会鍋
④⑤岡山での社会鍋



発行日及び定価
▼発行日 福音版・毎月一日発行
広報版・奇数月十五日発行(除く七月)
▼定価 福音版・一部 四〇円
広報版・一部 一〇〇円
クリスマス特集号 十二月一日号 一〇〇円
振替・〇〇一八〇五四四〇〇

発行兼 救世軍
印刷人 代表者ケネス・メイナ
編集人 寺澤 真由子

〒101-0051 東京都千代田区
神田神保町二ノ十七
電話 東京(03)三三七〇八八一
発行所 救世軍本営
印刷所 株式会社ビーアンドエス

(取扱支部)